



## プラズマ・核融合学会についての所感

山内章義 (中部電力)

私は、電力会社のエンジニアですが、数年前、原子力の広報活動を担当するべく、名古屋商工会議所の外郭団体に出向し、縁あって、プラズマ・核融合学会の事務局長として、総務、労務、経理等を経験しました。それまで労務も経理も全く経験がなく、事あるごとに、各種の実務書を読み、学会顧問の会計事務所や母体会社の顧問弁護士、社会労務保健士等に相談するなど、貴重な経験をさせていただきました。今振り返ると、学会事務局での4年間の経験は自分にとって大きな財産となり、当時の関係者の皆様には、本当に感謝しています。

現在は浜岡原子力発電所で5号機の建設・試運転に携わっており、研究活動とは違った角度から、学会、事務局の熱烈サポーターとして、何らかの支援活動を続けていきたいと考え、学会への想いについて提言の形でまとめさせていただきました。

昨今の厳しいご時世、他の学会や業界団体でも学会誌のA4版化、魅力ある企画特集など、会員サービスの強化に努めていますが、ニーズに合わない活動を続けていけば、会員、賛助会員の減少など、運営上の厳しい状況になることはご承知のとおりです。

しかし、不景気で企業活動の再構築が厳しく求められる今だからこそ、ニュービジネスのチャンスを掴もうと生き残りをかけて努力している企業やエンジニアが増えていることを見逃してはならないと思います。

幸いにも、当学会は、そのようなニュービジネスの種を持っている多方面の分野の研究者が集まっており、活動(PR)の仕方によっては社会に対して大きな貢献が可能な潜在力がまだまだあると信じています。

具体的には以下のような活動の展開について検討していただければ幸いです。

### 1. 会員のニーズにあった活動

#### (1) 有益な情報交換の場を提供する

インターネットの「¥価格 com」のHPを利用している方はたくさんいると思います。「クチコミ情報」のコーナーでは価格や性能・機能、使い方について、自由に情報交換しています。そのパワーにはいつも驚かされます。これを学会のHPに応用して、ちょっとした実験・解析や試験・計測方法などで、わからないところや解決方法について、インターネットのチャット感覚で、情報交換するコーナーを設けてはいかがでしょうか。ただし、単なる掲示板ではな

く、部門別にテーマを定めて、テーマごとの座長(当学会会員に限る)を募り、議論が発散しないようにすることが重要です。

#### (2) 興味ある情報を提供する

NHKのTV番組「プロジェクトX」に感動した人はかなり多いと思います。また、「失敗学」が各方面で注目を集めています。世間の人々の興味をひきつけるのは、他人が成功した例というよりも、先人がいかに悩んだか、失敗したかの方が面白いし、有益に感じるからだと思います。学会のHPもしくは、学会誌のコーナーに、先輩研究者の、苦勞した(失敗談)を設けてはどうでしょうか。悩んでいる研究者の「ひらめき」に通じるかも知れません。

### 2. 世の中の流れにあった活動

#### (1) シニア会員のパワーを活用する

小・中学校では、近年、「総合的学習の時間」がカリキュラムに加えられ、幅広いテーマにいかに取り組みか、理科離れ対策をいかにするかなど、対応策に苦慮している学校関係者が多くみられます。一方、行政関係機関や種々の団体では予算を持ちながら、よい企画が見つからず、似たり寄ったりの企画が継続されているところもあります。ここに、学会として、従来の枠組みを超えて取り組むべきところがあると思います。すなわち、人材と知恵はある(シニア会員の力)のだから、お金は文部科学省の予算以外にも利用可能なものが探せばあるので、学会としてその橋渡しをすることに取り組めばよいと思います。

その他、シニア会員の豊かな知識と経験を活用する場について、学会としても、今後は、積極的に提案してゆくことが望まれます。

例えば、

- ・研究者や産業界の技術者の悩みに対して、経験豊かなシニア会員が、アドバイスをするコーナーを学会HPに設ける。
- ・中小企業のエンジニアへの技術サポートの仕組み、たとえば、商工会議所などのタイアップの方法を考える。

#### (2) 大プロジェクトの隙間を埋めるニッチ部門の研究

企業では、不景気に対応して「資源の選択と集中」がやはり、更なる効率化を求めて、企業同士の統合や再編成が進められていますが、ニーズをしっかり捉えて、独自性を失わないニッチ産業は依然として根強く生き残り、業績を上げています。

小粒でも世界のオンリーワンで頑張っている小さな巨人といわれる企業が国内にもたくさんあります。隙間を埋める技術こそ特化すれば強い。プラズマ・核融合コミュニティも、看板の大プロジェクトに加え、ニッチ部門の科学技術の専門家を育成する視点を忘れないことが重要と思われれます。

会員ではありながら、研究には携わっていない単なるエンジニアの一面的な見方ではありますが、何かの参考とな

れば幸いです。

当学会の運営面での特徴、すなわち、規模がそれほど大きくないので小回りが効き、かつ、種々の分野の専門家が効率よく集まるといふ強みを最大限に活かせば、明るい未来が待っているように思えてなりません。

私自身も、側面からではありますが、学会（事務局）活動のサポーターの一人として、今後とも、努力してゆきたいと思っております。

## プラズマ・核融合学会事務局長の退任にあたって

徳田 繁幸（中部電力）

本来ならば、電力会社の社員として別の道を歩んでいた者が、偶然にも縁あってプラズマ・核融合学会の事務局長を拝命し、皆さまと交流できましたことや、様々な経験をさせていただきましたことに対し、大変ありがたく感謝しております。

事務局長としての本来の役割を全うできなく、ただただ自分の無力さを反省するのみですが、会長、常務理事はじめ関係者の皆さま、事務局員の皆さまのご援助をいただき、3年間何とか形上は過ごすことができました。このような私が学会について申し上げることは憚れますが、的はずれなこととは承知の上で、思うところを述べさせていただき、これからの学会の発展をお祈りする気持ちとして、捉えていただければ幸いです。

当学会が社団法人として発足以来、16年が経ちました。法人設立当初、中部地方に唯一の全国的な学会を設立し、学会の発展はもとより中部地方の活性化に寄与することへ大きな期待があったかと思えます。関係者の皆さまのご努力と中部財界を始めとする関係方面の絶大なご支援・ご協力のもと、学会の活動・運営が軌道に乗り、安定期を迎えている中で、バブル崩壊後の長引く景気低迷により、社会全体の活力が低下し、ここ数年来その影響が学会にも少なからず及び、将来の学会運営に一抹の懸念を感じていたのも事実です。

学会が未永く順調に運営されていくためには、財政基盤が盤石な状態が何よりも重要な事項であることは申し上げるまでもないことです。学会の基盤的な収入は、正会員と学生会員の会費収入と賛助会員の会費収入が大きなウエイトをしめており、この基盤が揺らぐと学会運営は困難をきたします。私がお世話になりました3年間では、会員数、賛助会員の減少を最大の懸案事項として捉えていました。会長始め各理事の方々がこのことに何とか歯止めをかけ、学会運営の基盤をしっかりとしたものにしていくことに真剣に検討されておりますが、役員のみならず会員の皆さん

が自分自身の問題として考えていただきたい課題であると思います。

特に賛助会員については、企業にとって魅力ある何かがないと今の厳しい状況では、会員に留まっていたくのは困難な気がします。3年の在任期間中に、数社から賛助会員脱会の申し出があり、何社かには、直接連絡を取り慰留をお願いしたこともあります。[業務に直接関係のない経費は見直す]とか「核融合関係の仕事が縮小しているので会社の方針として見直しを迫られている」「セミナー等に出席していない学会等は会費の見直しをお願いせざるを得ない」など厳しい返答ばかりいただきました。

学会設立時とは大きく社会情勢が変化しており、賛助会員にとってはやはり企業としてプラズマ科学や核融合が魅力ある分野に写るかどうかのポイントではないでしょうか。現状では、プラズマ・核融合学会の社会的な認識度も含め、学会と一般社会との距離感があるように感じられます。ITERの国内誘致の実現や核融合の将来見通し等を社会に示しアピールすることやプラズマ科学分野では、企業への応用面でのシーズ提供などの情報提供を今まで以上に明確にまた積極的に行うことが大切ではないかと考えています。

抽象的な表現しかできませんが、科学者は自分の領域だけに留まらず、今まで以上に積極的に社会とのインターフェイスを図り、社会の要求する科学技術を提供できる科学技術集団であることや産学連携をより一層深めていただくことを望みます。

その他にも、次世代層との連携教育やプラズマ科学分野の萌芽的な研究課題の発掘と振興、学会独自の新規事業の開拓などが企画委員会などで幅広く検討されておられますので、是非これらの成果が広く社会への貢献となり、ひいては学会の基盤安定に結びつきさらに学会のますますの発展に繋がるよう期待したいと思います。